

【今日の説教から】

「顧みる」という言葉があります。これは後ろをふりかえり、気にかけて心配するという意味があります。時に人は自分のことばかり考えて、周囲の人のことを顧みる余裕を失うことがあります。

ペテロはあんなに熱気を込めて、「主よ、わたしは獄にでも、また死に至るまでも、あなたとご一緒に行く覚悟です」と言いましたが、今日の聖書の箇所では、その舌の根も乾かぬうちに、夜のうちに、完膚なきまでにイエス様のことを見限ってしまいました。

彼は勇敢でした。彼のみが、捕らえられていくイエス様と共に大祭司の庭にまで赴きました。彼はその言葉の通りに勇敢で立派でした。しかしその彼の意気をくじくことが波のように彼を襲いかかります。ある女中は彼を凝視して、言いました。「この人もイエスと一緒にいました」

「イエス様と共にいる者」。これが彼の喜びでした。これが彼の生きる道でした。彼は何もかも捨てて主に従い、その人生は何にも勝る幸せでした。しかし今彼は自分がイエス様と共にいた者であることを否定するのです。

彼は無我夢中に自分の命を困難から救い出すのに必死でした。なりふりをかまっている余裕はありませんでした。それが二度、三度と続きます。私たちも必死になるあまり主を忘れ、主を否定してはいないでしょうか。しかしここに主の顧みがあります。主はどんな困難の中でも私たちにふりかえって私たちを見つめ、愛し続けてくださるのです。

皆様おはようございます。

いよいよ来週に受難週を控えております。

一時は真冬に逆戻りしたかのような寒い日々でしたが、ついに暖かな春の到来を感じる時となりました。

今日も私たちは御言葉から、主のご愛に触れ、心に暖かなものを注いでいただき、いのちに触れ、力を注いでいただきたいと願います。

ルカ 22:33 にはペテロの決意溢れる言葉が記されています。

シモンが言った、「主よ、わたしは獄にでも、また死に至るまでも、あなたとご一緒に行く覚悟です」。

これに先立って、イエス様は彼にこう言われました。

22:31 シモン、シモン、見よ、サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って許された。

22:32 しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」。

ゲッセマネの祈りがありました。イエス様は必死の祈りを捧げましたが、弟子たちは悲しみと疲れのゆえに眠りこけてしまいました。

22:45 祈を終えて立ちあがり、弟子たちのところへ行かれると、彼らが悲しみのはて寝入っているのをごらんになって

22:46 言われた、「なぜ眠っているのか。誘惑に陥らないように、起きて祈っていなさい」。

マタイ 26:38 そのとき、彼らに言われた、「わたしは悲しみのあまり死ぬほどである。ここに待っていて、わたしと一緒に目をさましていなさい」。

26:39 そして少し進んで行き、うつぶしになり、祈って言われた、「わが父よ、もしできることでしたらどうか、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの思いのままにではなく、みこころのままになさって下さい」。

26:40 それから、弟子たちの所にきてごらんになると、彼らが眠っていたので、ペテロに言われた、「あなたがたはそんなに、ひと時もわたしと一緒に目をさましていることが、できなかったのか。

26:41 誘惑に陥らないように、目をさまして祈っていなさい。心は熱しているが、肉体が弱いのである」。

いよいよ主の最後の時が近づいてきました。イスカリオテのユダが近づいてきて、イエス様に接吻をしました。弟子たちは主を守ろうと応戦しますが、到底歯が立ちませんでした。

そしてイエス様は大祭司の家へ、その中庭へと夜、連行されて行かれました。

22:54 それから人々はイエスを捕え、ひっぱって大祭司の邸宅へつれて行った。ペテロは遠くからついて行った。

22:55 人々は中庭のまん中に火をたいて、一緒にすわっていたので、ペテロもその中にすわった。

さすが、あれだけ言っただけのことはあります。ペテロは彼だけは、敵地である大祭司の家の庭までイエス様と共に進んでいきました。何と勇敢なのでしょう。ここまでを見れば、彼はまさしく「主よ、わたしは獄にでも、また死に至るまでも、あなたとご一緒に行く覚悟です」、との彼の言葉通りに事を行っていました。

しかしここから彼は熾烈な試みに会います。

22:56 すると、ある女中が、彼が火のそばにすわっているのを見、彼を見つめて、「この人もイエスと一緒にいました」と言った。

暗がりの中、夜の寒さの中、イエス様のことを心配して見守る、焚火に照らされた顔をじっとまっすぐに、凝視して離れない一人の女性がいました。いやな存在です。ペテロは暗闇の中、その存在に気づくことができなかつたのでしょうか。彼はじっとイエス様のお姿を見守るばかりであったのでしょうか。

ある女中は彼をじっと見、確信を得て、周りの人たちに、「この人もイエスと一緒にいました」と声高に言いました。

ペテロはどんなにかぎよつとしたことでしょうか。

「この人はイエスと一緒にいました」

私たちはクリスチャン、キリスト者と呼ばれますが、それは私たちにとってキリスト・イエスという方がどんなに大切な存在なのかということを表しています。

私たちはキリストによって救われ、キリストを主とし、キリストに似せられて成長していく、キリストと共にある人々です。

キリストを信じると言いながら、キリストと共にいない、自分勝手にキリストと関係なく生きていて、そのようにキリストと何の関係もなく生きているような人が悪霊から手痛い仕打ちを受けた出来事が、使徒19章に記してあります。

19:11 神は、パウロの手によって、異常な力あるわざを次々になされた。

19:12 たとえば、人々が、彼の身につけている手ぬぐいや前掛けを取って病人にあてると、その病気が除かれ、悪霊が出て行くのであった。

19:13 そこで、ユダヤ人のまじない師で、遍歴している者たちが、悪霊につかれている者にむかって、主イエスの名をとねえ、「パウロの宣べ伝えているイエスによって命じる。出て行け」と、ためしに言ってみた。

19:14 ユダヤの祭司長スケワという者の七人のむすこたちも、そんなことをしていた。

19:15 すると悪霊がこれに対して言った、「イエスなら自分は知っている。パウロもわかっている。だが、おまえたちは、いったい何者だ」。

19:16 そして、悪霊につかれている人が、彼らに飛びかかり、みんなを押えつけて負かしたので、彼らは傷を負ったまま裸になって、その家を逃げ出した。

19:17 このことがエペソに住むすべてのユダヤ人やギリシヤ人に知れわたって、みんな恐怖に襲われ、そして、主イエスの名があがめられた。

主を知る者、主を深く信じて思いも心も願いも首都一つになっているものに、主はどれだけの力を与えてくださるのでしょうか。「神は、パウロの手によって、異常な力あるわざを次々になされた」とあるのです。

ですから、「この人もイエスと一緒にいました」というのは、クリスチャンとして最高の誉め言葉であり、名誉です。

しかしペテロはどう答えたのでしょうか。

22:57 ペテロはそれを打ち消して、「わたしはその人を知らない」と言った。

イエス様を知ることになった光栄と幸いは永遠に私たちの喜びであり命であったはずですが、しかし彼はそれをかなぐり捨ててしまいました。彼は無我夢中になり、自分を見失い、まさに主が十字架の上から赦しを願って祈られた通り、自分が何をしているのか分かりませんでした。

恐怖と困難と疲れの中で、誘惑の中で、彼に試練の波風が容赦なく吹き荒れ、彼はそれに耐えることができずに陥落してしまいました。

マタイ 26:41 誘惑に陥らないように、目をさまして祈っていなさい。心は熱しているが、肉体が弱いのである」。

ルカ 22:32 しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」。

激しい、すさまじい誘惑は、試練は、葛藤は、恐ろしいことに、あれまでも主を愛し敬い、命を捨ててまでも従うという堅固な信仰と感謝と幸せだった3年もの時間をすべて否定させてしまうのです。

「わたしはその人を知らない」

一番弟子。竹を割ったような、直情的な、どこまでもついていくという弟子たちの中の筆頭格の弟子がこのありさまなのであれば、ほかの弟子たちもまた惨憺たるものでした。

イエス様が日夜精魂込めて仕え教えたことは全てが無駄だったのでしょうか。

「わたしはその人を知らない」

そんな人と私とは何の関係もない。私の人生に、その人は何の価値もない。何の関係もない。何の敬いもない。影響もない。だって私はその人と何の関係もない、私はその人を知らない

のだから。イエス様を前にして、何という残酷な言葉なのでしょう。これからその弟子のために命を捨てようとしているお師匠様の前で、何という冷酷な言葉なのでしょう。

22:58 しばらくして、ほかの人がペテロを見て言った、「あなたもあの仲間のひとりだ」。するとペテロは言った、「いや、それはちがう」。

22:59 約一時間たってから、またほかの者が言い張った、「たしかにこの人もイエスと一緒にだった。この人もガリラヤ人なのだから」。

22:60 ペテロは言った、「あなたの言っていることは、わたしにわからない」。すると、彼がまだ言い終らぬうちに、たちまち、鶏が鳴いた。

一度否定し、またもまたも、三度までも彼は主を知らないと繰り返してしまいました。嘘も否定も、一度してしまえばハードルが下がって、どんどんやりやすくなってしまおうのでしょうか。彼の心はどのようなだったのでしょうか。マタイ26章では、何度も何度も聞かれることにうんざりして、彼が何もかもかなぐり捨てて、きっぱりと、完膚なきまでに決別宣言をするような言葉があります。

26:74 彼は「その人のことは何も知らない」と言って、激しく誓いはじめた。するとすぐ鶏が鳴いた。

26:75 ペテロは「鶏が鳴く前に、三度わたしを知らないと言うであろう」と言われたイエスの言葉を思い出し、外に出て激しく泣いた。

果たしてかつてイエス様がペテロに言ったとおりにになりました。ペテロはそんなことが起こるはずがないとして、信じもしなかったことが、自分の身に実現したのです。

22:60 ペテロは言った、「あなたの言っていることは、わたしにわからない」。すると、彼がまだ言い終らぬうちに、たちまち、鶏が鳴いた。

22:61 主は振りむいてペテロを見つめられた。そのときペテロは、「きょう、鶏がなく前に、三度わたしを知らないと言うであろう」と言われた主のお言葉を思い出した。

朝明けと共になく鶏の声。そしてイエス様が彼のほうにふりかえって、ペテロをご覧になりました。先に女中が猜疑心に満ちて彼を凝視したように、まっすぐに彼を見つめるイエス様の目。しかしそのまなざしは住んでいました。慈しみと憐れみに満ちていました。振り返るといふことは、顧みるということ。山道に行くガイドさんは、一行がちゃんと

ついてくるのを見ながら、心配しながら、世話をしながら何度も振り返って進んでいきます。しかし、他を顧みない人は後ろの人のことはお構いなしに、どんどん先に行ってしまう。後ろがはぐれようと道に迷おうともお構いなしです。しかしイエス様は深く顧みてくださる方です。

ルカ 22:32 しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」。

22:34 するとイエスが言われた、「ペテロよ、あなたに言うておく。きょう、鶏が泣くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」。

22:61 主は振りむいてペテロを見つめられた。そのときペテロは、「きょう、鶏がなく前に、三度わたしを知らないと言うであろう」と言われた主のお言葉を思い出した。

22:62 そして外へ出て、激しく泣いた。

私たちはどうでしょうか。私たちもペテロと同じなのではないでしょうか。

大恩人である主を、私のために刺し貫かれて苦しみ、辱めに会う主を見限って自分のことばかりしか考えられない、恩知らずで薄情者なのではないでしょうか。

しかしそんな、親不孝な不埒な師匠の顔に泥を塗る裏切り者を、主は見捨てないで顧みを与えてくださるのです。振り返って私たちを心配してくださるのです。そのまなざしにはこの言葉がこもっています。

22:32 しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」。

私たちはただただ、この愛と祈りのおかげで信仰に進み続けることができるのです。私たちのありようは、どこまで行っても、どれだけ学んでも、どれだけ主のご愛顧をいただいても、どれだけ浅薄で、深みがなく、悲惨なのでしょうか。しかし私たちは主の憐れみとご愛顧によってそれでも弟子と呼んでいただき、信仰を得て立ち直り、したがって弱いもの同士が助け合い、力づけ合って進むのです。

22:63 イエスを監視していた人たちは、イエスを嘲弄し、打ちたたき、

22:64 目かくしをして、「言いあててみよ。打ったのは、だれか」ときいたりした。

22:65 そのほか、いろいろな事を言って、イエスを愚弄した。

天地を作られたお方に対して傲慢の限りを尽くす、人間の思い上がった心には血も凍るような恐ろしい心持がいたします。その世の中を進んでいくということは、どんなにか試練が待っているのでしょうか。そして外にも、また自分の内にも多くの問題を抱えているのです。しかし私たちのためには、それでもなお主の深いお顧みがあります。主は振り返って私たちをじっとご覧になられ、決して私たちをお見捨てにはなられないのです。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。あなたは給仕する者、じっと待ち、見守り、心配して世話をしてくださり、愛し、気にかけて、振り向いて顧みてくださるお方です。必死になるあまり、無我夢中になるあまり、私たちは最も大切なことを忘れ、道を失いさまよいますが、そして大きな失敗を犯して涙にくれますが、あなたがふりかえって顧みて私たちをまっすぐに見つめてくださる視線は、告発者の凝視とは違い、温かな、赦しの愛に満ちた眼差しですから、本当にありがとうございます。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン